

第3回 (2022年度) 日本セラミックス協会功績大賞受賞者

やすい いたる
安井 至 氏



安井 至氏はガラスなどの非晶質における構造に関する研究においてセラミックス科学の発展に多大な貢献をした。酸化物の固相反応を酸素充填構造の変化と陽イオンの拡散から捉えることから始め、さらに非晶質構造論に取り組んだ。詳細な構造モデルに基づく解析法により、シリケート系やフッ化物系ガラスにおける構造の理解を深めた。ガラスの硬度を有限要素法解析によって解析し、ガラスの物性と構造との関係を明らかにした。さらに薄膜形成法で得られる非晶質でも、構造と物性の関係等の新規な知見を得た。これらの成果に対して1978年に進歩賞、1990年に学術賞、さらには2015年にフェロー表彰を受けている。

本協会においては、1980年以降20年余りにわたって理事を務め、特に運営企画、総務、情報担当理事、電子材料部会の部会長として貢献した。また東京大学の国際産学協同研究センター長として国家プロジェクトを主導した。さらに国際連合大学副学長など国際的にも幅広く活躍し、セラミックスにとどまらず人間地球環境系の研究においても様々な発言を繰り広げた。

以上、同氏は本会における活動を通じてセラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げるとともに、長年にわたって日本セラミックス協会の活動に極めて多大な貢献をされた。よって、日本セラミックス協会功績大賞として表彰する。

略 歴 1968年東京大学工学部卒業、1973年東京大学大学院工学系博士修了、1990年7月東京大学生産技術研究所教授、1996年5月東京大学国際・産学共同研究センター長、2003年12月国際連合大学 副学長、2005年6月東京大学名誉教授、2008年1月(独)科学技術振興機構 研究開発センター 上席フェロー、2009年4月(独)製品評価技術基盤機構 理事長、2015年7月(一財)持続性推進機構 理事長。

受賞歴 1978年日本セラミックス協会進歩賞、1990年日本セラミックス協会学術賞、2015年日本セラミックス協会フェロー

協会歴 1980年度～1983年度理事、1986年度～2007年度理事(運営企画、総務、情報)、2020年度～名誉会員